

分担研究報告書

油症検診における眼病変の追跡調査

研究分担者 園田 康平 九州大学医学研究院眼科学分野 教授

研究要旨 令和4年度油症患者の眼症状を調査した。

A. 研究目的

研究の目的は、油症患者の眼所見の把握および治療法の確立である。したがって、患者の眼症状を把握し、その症状、苦痛を除くことに関する研究である。

B. 研究方法

令和4年度の油症検診にて、九州大学病院眼科外来あるいは福岡県の油症一斉検診時に油症患者を診察し、眼所見および症状を把握する。

(倫理面への配慮)

本研究の解析結果においては、個人が特定できるようなデータは存在しない事を確認した。

C. 研究結果

新型コロナウイルス感染の拡大の影響を懸念し、今年度も検診を行っていないが、昨年度までの患者データおよび臨床所見を解析し、文献的考察を行った。これまでの油症研究で、血中PCDF濃度と関係がある眼症状として、眼からの浸出液の増加が指摘されている。一方で、油症患者の特徴的な症状であるマイボーム腺の分泌過多には関係性が認められていない(Nakamura T, et al., Journal of Dermatological Science Supplement Volume 1, Issue 1, April 2005, Pages S57-S63)。この原因としては、加齢性の変化、もしくはダイ

オキシン類の毒性影響のため、マイボーム腺に萎縮性変化を来し、分泌過多が減少している可能性が想定される。

D. 考察

一昨年度までの経過では受診者の高齢化が進み臨床所見は少なくなってきた。新型コロナウイルス流行の社会的影響が軽減され次第、油症眼科症状の検診を再開したいと考える。

E. 結論

一昨年度までの経過では受診者の高齢化が進み、臨床所見は少なくなっているが今後も経過観察が必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし